

ジョイサポコラム No.2

マンハッタンでの子育て

みやざわ皮膚科 宮沢めぐみ

1997年、5歳の娘をつれて夫婦で渡米し、研究員としてニューヨーク州マンハッタンの隣り合う別の大学に共働きで約2年半勤務しました。日本と少し違う共働き子育て事情について書きたいと思います。

渡米してまず娘の幼稚園を探しました。幸い自宅からも職場からも徒歩5分の公立小学校に幼稚園が併設されていました。米国では、指定されたワクチンがすべて接種済みでなければ通学できません。日本で接種したワクチンをメモし、足りないワクチン接種をしてもらうため、夫が小児科に連れて行きました。接種が必要なワクチンは4種。その場で一度に接種されました。あまりのことに泣くこともできなかった娘に、ナースが“Lollipop（棒付きキャンディー）は欲しいか？”と聞いてきました。娘は意味が分からず、夫は“君はロリコンか？”と聞かれたと思い、“I am not a ロリコン！”と答えてしまったとか。それでも何とかLollipopを手にする事ができました。

学校は周囲に大学や病院といった研究施設が多いため外国人が多く、娘も含め英語が母国語でない生徒のための英会話クラスが週に何回かあり、徐々に英語が身についていきました。また小学校に進学すると読書に力を入れ、本を1-2冊読んで感想文を書くという宿題が毎日出ていました。ブックフェアも時々開催され、親子で話し合って本を選び購入していました。昼食は給食でも、お弁当持参でも可でした。早く米国の生活に慣れてほ

しくて給食を選択しました。しかし自由に好きなものを取って食べるカフェテリア方式だったので、お弁当のほうが栄養的に良かったと後悔しています。授業参観は早朝に、父母面談は夜に行われたので、仕事の調整をせずに参加でき、良いシステムだと思いました。

通っている学校では別料金でアフタースクール（学童保育）もあったので、通わせることとしました。生徒は学校が終わって引き続き6時半まで学校で過ごすので安心して仕事に専念できます。語学面で最初は心配しましたが数日で慣れ、何とか6時過ぎまで仕事ができるようになりました。大学から研究者を呼んで理科の実験をするというプログラムもありました。迎えに行くときよく親が子供に“今日はなんのテイクアウトにする？”と聞いていました。皆さん家で食事を作る習慣があまりない様子でした。私も次第にテイクアウトも活用し、その分娘の宿題や学校の話聞くのに時間を費やすようになりました。

夏休み中はサマーキャンプ（サマースクール）が多数ありました。1年目は語学に問題があっても大丈夫なモンテッソーリ教育学校のキャンプに行かせました。終了時間が5時だったので、早朝に研究室に行き、いったん家に戻って朝食、娘を送ってから研究の続きをして夕方は早めに切り上げていました。子連れで研究室に戻って仕事をする日もありました。2年目は英語が大丈夫になったのでより遅くまで預かってくれるコミュニティーセンターのキャンプに行かせました。どちらの

キャンプも博物館などの見学、水泳などもあり、子供を飽きさせないプログラムでした。

滞在中娘が病気になることもありました。夫が学会で留守中に娘が発熱。激しい腹痛と下痢、粘血便も出る状態になったため、小児科受診を決意しました。受診するにはまず電話しメッセージを入れ、ナースからのコールバックで受診の交渉をする必要があります。しかし“2-3時間様子を見てください”と言われてしまい、しつこく電話し続けてやっと夕方診察してもらえました。診察のあと“すごく痛そうだけど、何が食べたい？”とドクターが娘に聞きました。おかゆにうんざりしていた娘はなんと“フライドポテト！”と答えました。ドクターに“痛みはアセトアミノフェンを買って飲ませればいいし、フライドポテトも買って食べさせたら？”と言われ、処方ありませんでした。指示通りアセトアミノフェンは飲ませましたが、さすがに下痢腹にフライドポテトは食べさせることはできませんでした。何とか数日で軽快後、職場でこのことを話すと“病気の時はお食べたいものを食べるもの。なぜフライドポテトを買ってあげなかったのか？”と言われる始末。病気の時はお体の要求するものを食べて寝て治すの

が米国流のようです。

英語で過ごす時間が長かったため、帰国時娘の日本語はかなり怪しい状態でした。小学2年生なのに漢字がほとんど書けず、親子でしばらく漢字の練習に取り組みました。また日本は給食の時間が短く、残さず全部食べなければならぬのがストレスだったようです。英語力を維持するため、英会話教室に通わせ、英語の本を買ひ、夏休みは英語圏の国へ旅行に行ったりしました。その結果、英語だけでできるアンバランスな学力の子になりましたが、現在は成人し後期研修医として勤務しています。

帰国後私は勤務医に戻りましたが、近くに学童保育がなく、授業参観や懇談会などの行事も昼間に行われるため、仕事との両立の悩みが多くなりました。結局娘が小学校高学年の間は休職や非常勤となり、中学進学時に常勤に戻りました。米国のほうが働きやすくはありますが、日本の学校では食育に至るまできめ細かい指導があり、また医療面でもよい点が多くあります。日本の良さを大切にしつつ、今後もう少し共働きにやさしい社会になっていくことを願っています。